



展開オプション

- [HyperFlex Edge 導入オプション \(1 ページ\)](#)

HyperFlex Edge 導入オプション

HyperFlex Edge は、Cisco Intersight を使用してクラウドから、またはオンプレミスのインストーラアプライアンスを使用して導入できます。要件に応じて、次の2つのオプションから選択できます。

- **HyperFlex オンプレミス OVA インストーラ** : 3 ~ 4 個のノードクラスタのオンプレミスでの Edge の導入には、このオプションを使用します。このタイプの導入は3つすべてのネットワークトポロジをサポートし、アプライアンスのダウンロードとインストールに加えて、ローカルネットワークアクセスが必要です。



(注) オンプレミスのインストーラの使用は、2つのノードの HyperFlex Edge クラスタではサポートされていません。

- **Intersight インストーラ** : クラウドから HyperFlex Edge を導入するには、Edge のこのオプションを使用します。この導入オプションは、すべての Edge クラスタ サイズとネットワークトポロジをサポートします。

本書では、オンプレミス OVA インストーラを使用した導入についてのみ説明します。

Cisco Intersight を使用して HyperFlex Edge クラスタを導入するには、『[Cisco Intersight 向け Cisco HyperFlex システムインストールガイド](#)』で詳細な導入方法を参照してください。Cisco Intersight HX インストーラを使用すると、HyperFlex Edge クラスタを短時間で展開できます。このインストーラにより、「HX クラスタプロファイル」と呼ばれるクラスタの事前構成定義が作成されます。この定義は、HX Edge クラスタ内の HX ノードの論理的表現です。HX クラスタプロファイルで、Cisco Intersight 内にプロビジョニングされる各 HX ノードが指定されます。

追加ゲスト VM VLAN はオプションです。シンプルなネットワーク設計の維持を望む環境では、ゲスト VM トラフィックに上記の同じ管理 VLAN を使用できます。



(注) 各クラスタは、固有のストレージデータ VLAN を使用して、すべてのストレージトラフィックを分離しておく必要があります。複数のクラスタにわたってこの VLAN を再利用することは推奨されません。



(注) Cisco VIC の特性は、同じ物理ポートから複数の vNICs から切り離されているため、同じホスト上で実行されているインターフェイスまたはサービスに L2 で通信するために、vswitch-hx-vm-network 上でゲスト VM トラフィックを設定することはできません。a) 別の VLAN を使用し L3 ルーティングを実行するか、b) 管理インターフェイスへのアクセスが必要なゲスト VM が vswitch-hx-inband-mgmt vSwitch に配置されていることを推奨します。一般に、vm-network vSwitch を除き、ゲスト VM を HyperFlex で設定された vSwitches のいずれにも配置しないでください。使用例としては、いずれかのノードで vCenter を実行する必要があり、実行している ESXi ホストを管理するための接続が必要な場合があります。この場合は、上記の推奨事項のいずれかを使用して、接続が中断されないようにします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。